

英語活動・英語委員会

1 研究テーマ

子ども達が英語や異文化に対して、興味関心を高めながら、意欲的に取り組む英語活動のあり方

2 研究課題

本研究会では、英語活動の中で、コミュニケーションの手段として頻繁に使うであろう対話や自他国の文化の共通点や相違点に気付くことのできる内容を、より楽しく扱うことを考え、目指す子どもの姿を

- ・ [英語は、楽しい]と感じ、積極的に英語に関わろうとする子ども
- ・ 恥ずかしがったり、間違いを恐れたりせず、進んでコミュニケーションを図ろうとする子ども
- ・ 外国の生活や文化に興味関心を深め、日本との共通点や相違点を見つけながら、自他国の文化それぞれを大切にする心を養い、共に生きようとする国際感覚をもつ子ども

とした。

このような子どもの姿に近づけるために、[発達段階に応じたカリキュラムの作成と見直し] 担当が行う英語活動のねらいと留意点 [子ども達が飽きずに楽しく英語を聞くために何が必要か] を研究していった。

3 指導の実際

発達段階に応じたカリキュラムの作成

- a 子どもニーズ、身近な素材に合わせてトピックや言語材料を配置する
- b 必要基本文型を決め出す
- c 体系的・系統的に取り組む

HRT(担任)による授業のねらい、および留意点

子ども達が飽きずに楽しく英語を聞くために何が必要か

4 この事例から明らかになったこと

(1)低学年、中学年、高学年それぞれの児童の特性と考えられる活動が明らかになった。

一例

低学年の特性	中学年の特性	高学年の特性
・ 音に対して敏感で、屈託なく、発音することができる。	・ 知識欲が増し、理論的に考えることができるようになる。	・ 理論的、分析的に物事をとらえ、知的欲求が旺盛となる。

考えられる有効な活動		
・ 動作を伴った活動 ・ チャンツ・早口言葉 ・ 体全体を動かす歌、振りつきの歌、手遊びなど	・ ルールに従って活発に動き回る歌 ・ 正しいかどうかを互いに確かめ合うゲーム	・ 既習の単語や対話を生かした会話活動 ・ 具体物のみでなく抽象的な感覚を表す活動

(2) HRT(担任)による授業のねらい、および留意点が明らかになった。

HRTの授業のねらい

- ・ 英語活動の継続
- ・ 子どもの発達段階に寄り添い、言語習得のための言語材料の系統性を意識したカリキュラムの実行
- ・ 子どもたちの興味関心を取り入れた国際的な問題の提起や国際交流の準備
- ・ 世界の国々の紹介
- ・ 語彙の充実

HRTに必要なこと・留意点

- ・ 担任自身が英語活動を楽しむこと
- ・ モデルとなる視聴覚教材の使用（CD・ビデオなどによるネイティブの発音を聞く機会を設けること）
- ・ 子どもに聞かせたい英語の用意・選択
- ・ カリキュラムの検討・実行
- ・ 子どもたちの興味をとらえた活動作り

(3) 子ども達が飽きずに楽しく英語を聞くために何が必要か明らかになった

- a. リズムのよさや、繰り返し、動きある活動を取り入れること。
- b. ストーリー性を持たせ、場面設定を具体的に行うこと。
- c. 既知の単語や既知の体験に気付かせ、興味を持たせること。
- d. 視覚的補助により、推測させながら聞かせること。
- e. ゲームを通し、聞かなければならない状況を設定すること。
- f. 未知の世界を感じさせ、新しい価値観や気付きをもたせること。

5 来年度への課題

- ・ 誰もが英語活動の授業を行えるものにするためには、さらに教材の吟味や、授業の進め方について研究をしていく必要がある。
- ・ 聞く活動はかなり深めることができたので、さらにコミュニケーションを活発に行う活動を研究していきたい。
- ・ 研究会の中で小・中学校の先生方と交流ができたが、さらに情報交換をしながら連携についても考えていきたい。

6 その他

研究授業 平成17年10月12日（水）

学校名 森上小学校 3年智組「どこにあるの？」

授業者 鶴田恵市教諭

指導者 清泉女学院大学教授 渡邊時夫教授